

鳥取県

島根県

岡山県

広島県

山口県

会社全体でルールを決めて習慣化 運用の見直しによる小売業の取組

きっかけ

株式会社サンアイの経営するスーパーマーケットサンアイ安来店（以下、サンアイ安来店とする。）では、東日本大震災をきっかけに、2011年から2014年にかけて、補助金を活用しながら、高効率機器への更新による省エネ活動を行ってきた。店内の大部分の設備更新を終え、次なる取組を模索していたところ、運用の見直しによる改善ができることを知る。そこで、デマンドコントローラーを導入し、運用形態の見直しを行うことにした。

取組の概要

デマンド値を監視し、空調、照明、冷蔵庫などの運用の見直しを行った。これら運用改善のみの取組で、使用電力量約15%の削減を達成した。これは、店舗だけでなく、会社全体の取組としてルールを決め、習慣化したことによる成果である。パートタイム従業員なども多く働くサンアイ安来店では、全ての従業員に周知することが課題であったが、店長やチーフから直接従業員に対し、店舗を家庭に置き換え、電気のムダや使用量を説明することで、節電の意識を高めていった。現在では、サンアイ安来店での取組を参考に、他店舗へ取組を水平展開している。

▶▶ 空調の運用の見直し

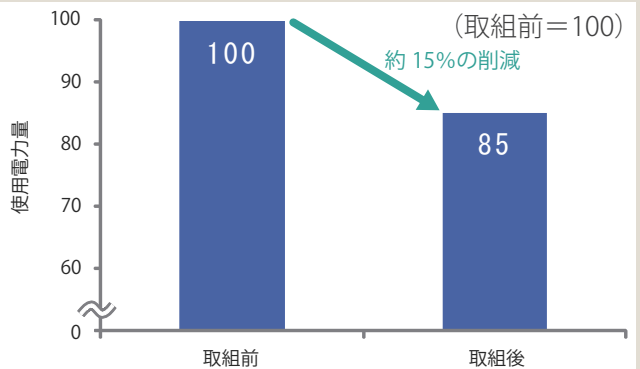
空調は、スイッチを入れるタイミングと切るタイミングを見直している。例えば、閉店30分前に空調を止めても、あまり温度変化がないことがわかり、早めに止めることをルール化した。また、空調のスイッチを一度に全て入れてしまうと、使用電力が重なりピークが大きくなるが、30分ずつ間隔をあけて入れるだけでもピークを小さくすることができた。デマンド値を超えそうになった場合は、お客様に影響の少ない、空調4台に優先順位をつけて、30分ずつ送風運転を行うなどの取組により対応している。

▶▶ 冷蔵庫の運用の見直し

商品を陳列する冷蔵庫は、必要な場所や量を意識し、取り組んでいる。例えば、生鮮食品は、見比べて購入するため冷蔵庫の照明を減らすことはできないが、酒類や飲料は、お客様が手に取る手前の商品ラベルがはっきりと見えれば問題ないのではないかと考え、2列の蛍光灯の内、奥を照らす蛍光灯を消すことにした。また、大量の商品を積み上げるのではなく、売れ行きに応じて、陳列する商品の量を適正化している。

【主な取組の内容】

- ・Hf 蛍光灯及び反射板への更新
- ・高効率空調への更新
- ・高効率な冷蔵庫への更新
- ・デマンドコントローラーの導入



▲取組による省エネの効果



酒類・飲料の冷蔵庫では、手前の蛍光灯のみ点灯し、奥は消灯している。冷蔵庫の奥は暗くなるが、お客様が商品を選ぶ際に確認する手前の商品のラベルは、はっきりと見える。

▲酒類・飲料の冷蔵庫における照明の間引き

名称：株式会社サンアイ
スーパーマーケットサンアイ安来店
所在地：島根県安来市飯島町516
連絡先：0859-39-7311（本社・代表）
事業内容：スーパーマーケット
従業員数：約30名

これからの取組

現在、冷蔵庫の霜取りの時間の見直しや冷気の逃げ防止対策、直射日光の当たっている室外機への散水や日よけなども検討している。従業員の意識向上に伴い、今後は現場の声で、取組を促進できればと考えている。